

避難訓練・防災スクール

11月4日(火)、全学年を対象に南海トラフ地震を想定して避難訓練を実施しました。今年は、事前に訓練実施を生徒に予告せずに、休憩時間中に地震発生した想定で行いました。放送が聞こえにくいところにいたり、廊下にいた生徒もいましたが、安全を確保した後、グラウンドに全員避難を完了しました。その後、県防災企画課(防災ナビアプリの活用法)、日本赤十字社(災害時に必要なロープワーク)、海南消防署(救命処置方法)、海南市危機管理課(段ボールベッドの製作体験)、海南市社会福祉課(車椅子の実体験)の協力を得て、それぞれのブースにて防災スクールを行いました。全員が高い防災意識を持つ取り組んでいました。



健脚遠足（1学年）

11月14日(金)、本校の伝統行事である健脚遠足を行いました。天気に恵まれ生徒たちは元気に3つの峠を越えていきました。約25kmの道程を班別行動で助け合いながら熊野古道を歩きました。仲間づくりと連帯感が高まった行事となりました。



近畿大学原子力研究所で研修

教養理学科2年

12日(水)・13日(木)、教養理学科2年生が東大阪市にある近畿大学原子力研究所での研修に参加しました。管理区域に立ち入る前の保安教育を受けた後、3班に分かれて研修を行いました。

原子炉運転実習では、制御棒の位置を手動で調整して出力変更する体験を行いました。また、放射性同位体の遮蔽と距離の測定実験に取り組むなど、研究所ならではの貴重な経験をすることができました。この2日間の研修をとおして、原子力や放射線に関する理解を深め、基本的な知識との利用法について詳しく知ることができました。



人権講演会

パフォーマンス&トーク

18日(火)、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった少女・佐々木禎子の甥にあたるシンガーソングライターの佐々木祐慈さんを講師にお迎えし、講演会を開催しました。戦争や原爆の事だけでなく、次の世代の子ども達が、生まれた場所や皮膚や目の色の違いを越えて、笑顔で過ごせる世界が来るよう身近な人々と手を取りあい、素敵なかみを作っていくというメッセージをいただきました。



2025おもしろ科学まつり

和歌山大会

和歌山大学キャンパスにて「おもしろ科学まつり」に参加しました。子ども達に科学の面白さを伝えるため、大学、高校、中学、企業、団体が様々なブースを出展しています。本校科学部も「砂の中の小さな生き物～探してみよう、有孔虫～」で出展し、多くの子ども達に体験していただきました。

『砂の中の小さな生き物~探してみよう、有孔虫~』

ひとりわ行列の長い教室を覗くと、子どもたちが顕微鏡を前ににやら作業をしています。
近づいて見てみると、砂を顕微鏡で拡大してピンセットで何かを取り出していました。
取り出していたのは「有孔虫」。有孔虫とは原生動物のなかまで、石灰質の殻をもったアーベーのような生き物です。この有孔虫の殻が、海岸の砂の中にたくさん含まれているというのです。

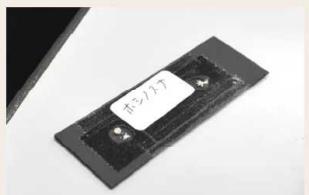
顕微鏡を観きながら子どもたちは夢中で有孔虫を採取していました。



観察を続けると有孔虫の種類もさまざまあることが分かります。

有孔虫が多く含まれている和歌山の海岸マップなども紹介されていて、科学部有孔虫グループに所属する学生の皆さんのが熱心な研究成果が伺えました。

今回は顕微鏡の使い方も学ぶことができましたが、有孔虫はルーペでも十分見ることができますのでぜひ家族で海に遊びに行った際に探してみると面白いですね！



12月の予定

- 3日 遊歩道交通指導
- 7日 2学年修学旅行（沖縄～9日）
- 15日 遊歩道交通指導
- 19日 午後 三者面談（～24日）
- 24日 終業式